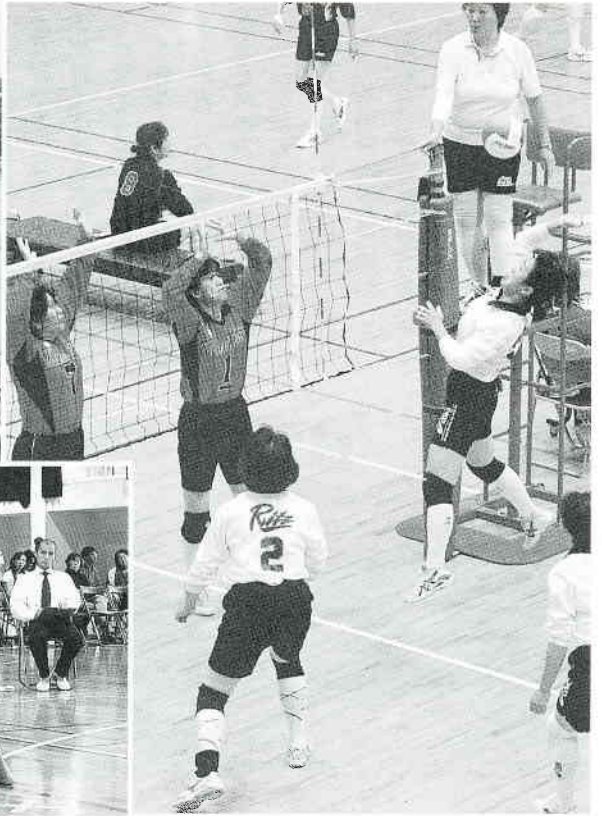
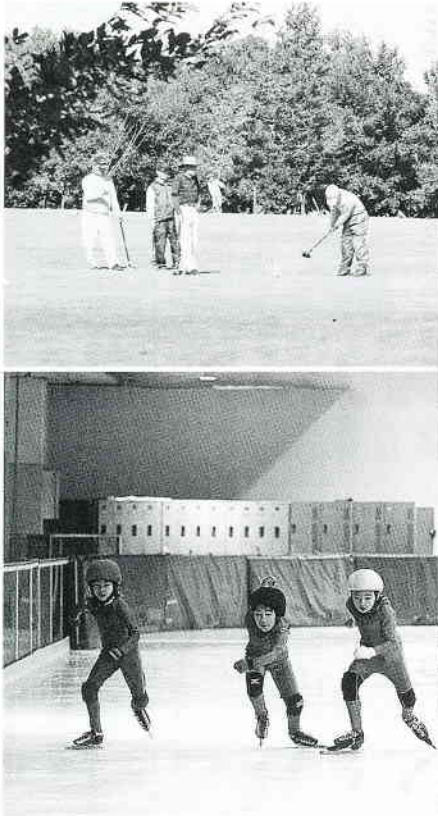


スポーツ川越

発行 川越市体育協会



健康寿命と運動（スポーツ）

川越市体育協会 副会長 三浦邦彦



「健康寿命」という言葉をご存じでしょうか。「健康寿命」とは世界保健機構（WHO）が二〇〇〇年に発表した新しい指標で、平均寿命から病気やけがで健康が損なわれている期間を差し引いた年数、すなわち健康で自立した生活を送ることが出来る年数のことを指します。日本人は平均寿命、健康寿命ともに世界一ですが（表参照）、平均寿命と健康寿命との隔たりは6.4年あります。この差を縮め、人生の終焉を迎える際まで健康を維持したいというのはおそらく万人の願いでしょう。

適正な運動（スポーツ）の習慣は健康寿命延伸の鍵を握っている生活習慣病予防に寄与していることは言うまでもありません。もちろん運動（スポーツ）の習慣をもつことは、一人ひとりが主体的に取り組む課題ではありますが、社会の支援体制も

不可欠です。川越市においても生涯スポーツの振興を図るための重点事項が設定されていますが、高齢化社会を迎えた今、競技性の高いスポーツに偏らない組織に所属しなくても気軽に利用できる、居住地域に近い、指導体制が整っている等の条件を備えた施設が必要とされているのではないのでしょうか。しかし、残念なことにはこのような状況下でありながら川越市市民体育館がアスベストの問題で取り壊されることになりました。一日も早く代替施設が実現することを望んで止みません。

健康寿命の国際比較

	WHO 2002年	
	健康寿命(歳)	平均寿命(歳)
日本	75.0 (1)	81.9 (1)
スウェーデン	73.3 (2)	80.4 (3)
スイス	73.2 (3)	80.6 (2)
イタリア	72.7 (4)	79.7 (6)
オーストラリア	72.6 (5)	80.4 (3)
アメリカ	69.3 (23)	77.3 (20)
韓国	67.8 (27)	75.5 (30)
中国	64.1 (44)	71.1 (57)

(149カ国の順位)

特集 座談会

生涯スポーツの振興と市体協及び各団体の役割

川越市体育協会会長

関口 正 鑠氏

パラリンピック柔道金メダリスト

牛 窪 多喜男氏

川越市女性スポーツ団体連絡協議会

副会長 須 賀 郁 子氏

副会長 川越市体育協会

副会長 河 野 哲 夫氏

生涯スポーツ振興の必要性

関口 生涯スポーツという言葉は、ここ10年ぐらいで急速に普及してきましたが、意外に本当の意味では理解されていないという感じを強くしています。高齢化が進み、健康の大切さが叫ばれる中で健康の維持増進のために必要な運動が、時間や費用の関係でどうしてもおろそかになりがちです。

そういう意味で、今までの体育協会のスポーツ団体は、競技を中心とした団体ですが、これからは生涯スポーツとして、小さいお子さんから高齢者の方まで本当にファミリーで楽しめるスポーツの在り方を考えていかなければならぬ

と思います。2世代、3世代の方々が一緒になって楽しめるようなイベントを考えたりして関口を広げ、健康ということ 키워ワードにしたスポーツ施策が必要になってくるのではないのでしょうか。

牛窪 今国民が心配していることは健康で、一番興味があるのも健康です。一番興味があることが一番心配なことだという不幸な時代なんです。そういう意味から言ってもスポーツを生涯にわたって実践していくという事は重要なことだと思えます。大変に寿命は延びたんですけれども、健康寿命はあまり伸びていない。生涯スポーツの位置づけを全面に押し出していく必要があるかと思えます。

それと、体力の問題があります。体力は運動能力だけでなく、気力・持続力・免疫力を高めるということです。また、体力は、決して若い時の体力ということではなく、その歳その歳に応じた体力の高め方で行う必要があると考えます。一番元気な10代のスポーツの仕方と、80・90代のスポーツの仕方では、違うというのは当然です。障害をもった人がスポーツを

するということも、その中で行っていけば良いと思えます。

望まれる地域拠点体育施設

須賀 みなさん運動はしたいんですけどね。しかし、場所がないんです。気楽に使わせていただける場所があると、皆さんお喜びになると思えます。連盟に加盟していません。クラブを作つて楽しんでいられる高齢者の方たちもおりますし、一つのクラブで70人も人がいるところもあります。そこでお友達を作つたり、健康のために運動したり、一緒にお花見に行つたりして楽しむグループもあります。そんな



な方達のためにも、なにしろ運動する施設を数多く造つていただきたいと思えます。

関口 生涯スポーツでは、拠点施設が身近なところにあることが大切です。高齢者の方々が交通の問題もありませんから。そういう面では、一カ所に大きな施設を造るより、地域に分散して造つていただいて、その地域の人が自由に使えるものにしていったらいいんじゃないかと思えますね。それには、行政が全部みるのは大変なので、自主管理をさせてほしいんです。そのほうが、大切に一生懸命やりますよ。

牛窪 そうですよ。身近なところに施設があることが望ましいと思います。

そうはいつでも、特に男性はある程度スポーツができないと施設に行かないんですね。得意にならないと趣味にならないという国民性ですから、これまでスポーツをしなかつた人を呼び覚ますには、見る環境も必要です。

「あ、自分にはこのスポーツはできるな。」と思う見る環境、とりあえずしてみる環境などの整備をし、入りやすくしていかなければならないと思えます。欧米では、スポーツの後、アフタースポーツを楽しんでいます。こういう複合施設

がなかなかないんですね。

関口 日本にはクラブハウスという感覚がないんですね。外国の場合、クラブハウスで汗を流したらビールを一杯と、そういうリラックしたもののな。日本は少し偏りすぎたんじゃないかな。ご存知のように、スポーツというのはもともと遊びが主体ですから。日本人の場合は、遊び心が欠けちゃっているんですね。もつとリラックスしたものが生涯スポーツには重要な要素ではないかと思えます。

スポーツの新たな流れ

関口 例えば卓球について見ますと、健康志向で来ていただいた方には、健康を中心にした、今の卓球ルールにこだわらないで、楽しめる卓球という手段を新しく生み出したらどうかと思うんです。須賀 ラージボールといって、ボールが大きくて、ボールが遅いから年配の方にも楽しめるのがあります。最初は、初心者や高齢者がやってましたが、今は一般の人も入ってきています。

関口 それで、今までやったことのない人ができると思います。司会 運動文化として、歴史的に続いているルールでのスポーツの活動から、サッカーからフットサ

ルが生まれたりバスケットボールのスリーオンスリーなど、新しいスタイルでのスポーツ活動を考えるといつてよいでしょうか。

関口 それから異年齢の人たちを大いに抱き込む必要があると思うんです。例えば、卓球連盟なら、1年に2回、親子や親子3代のファミリー卓球大会を行うとかね。新しい考え方を持っていないと生涯スポーツの普及は本当には伸びていかないんじゃないかと思うんですよね。



関口正鏢氏

牛窪 私は自分の道場で、障害を持つ子から高齢者、若年層まで受け入れているんですが、その時に必ず言うのが宮本武蔵の言葉で「今日は、昨日の我に勝つ」これは、山下選手のように、世界のチャンピオンになっても、極めるために昨日の自分に勝つということ。しかし、誰にも勝てない子どももいます。けれども、腕立て一つができるようになったら昨日の自分には勝っている訳です。全ての人が当てはめることができますね。そして、もう一つその頂点を目

指す人のためにも、生涯スポーツが開けていかなければならないですね。それは、夢や希望を与えてくれることになるからです。子ども達はそこに集ってきますし、大いなる新しい息吹にもなりますしね。先を目指すために何をしたらいいかという場所に生涯スポーツがなってくれたらいいですね。

須賀 今、オアシスで、車椅子の子どもさんと卓球ボランティアをやっているんですけど、すごいハビリになるんですよ。ボールを持ってなかった子が持てるようになり、持つ位置が低かったのがだんだん上へ上がるようになって1時間ぐらいの間で、できるようになりました。ご両親からとても喜ばれました。それから、視覚障害者の方の卓球は、ルールが少し違っていて難しいですが、今、審判の資格をとってお手伝いできるように進めているところです。



牛窪多喜男氏

牛窪 生涯スポーツの大事なことろは、自分を知ることなんです。現実を知ることなんです。例えば、私のように障害者であっ

たら、どこができないかをスポーツで学ぶことができるのです。つまり、高齢者であれば、自分の年齢の中で自分が良かった悪かったとしっかりと判断をさせないと、家の中で転ぶんですね。自分が今どういう位置にいるんだというのをスポーツでわきまえてほしいんです。己の力を知って、対処していくと日本中が元気になっていくというのが、生涯スポーツの大きな役割だと私は思うんです。

市スポーツ活動の躍進に向け

須賀 市民体育館は、どうなるんでしょうか。お年寄りから子どもまでみんなが使える施設を造っていただけると、場所がいいからみんな使おうと思います。大きな大会は総合運動公園があります。地元の人が使え施設を数多く造って欲しいですね。

牛窪 私はスポーツというものは誰のためにするのか、といったら、もちろん自分のためにするのですが、自分だけではなく身の周りの人も幸せにする、そういう深い意味があると思います。スポーツをすることによって、できるスポーツとできないスポーツ、人間として年齢によってできるものとできないもの、そういうものの選り分けが可能になります。人間が生き

ていき物事を解決していく上で大切なのは、現実を受け止めることですね。その現実を受け止める、自分の体の状況を受け止める一番手っ取り早いのがスポーツだと思っ

うんです。スポーツをしていて、自分の状況を認識する。さらに、自分だけでなく人のためにもどういう働きをしたらいいか、スポーツからいっばい学んでいただきたいと思います。



須賀郁子氏

関口 私は、生涯スポーツの振興はあらゆる面でプラス面が多いと思います。例えば、市の場合、医療費が大幅に減ってくると思えます。本当に普及してきたら、今、市で使っている医療関係の費用

ですごく大きいんじゃないですか。だから、私は、その10%でも、予防のために使ってほしいんです。そういう意味でも、生涯スポーツを真剣にやってもらいたいと考えます。



座談会を終えて

生涯スポーツの推進が叫ばれて久しくなっています。この間に川越市体育協会として、その充実に向けて様々な事業に取り組んできました。

今回の座談会では、市体協本部・世界レベルでの競技スポーツ経験者有する方・女性のスポーツ愛好者というジャンルから、本市の生涯スポーツのあり方について語っていただきました。紙面の都合でお話の全ては掲載できませんでしたが、市体協あるいは各団体は今後取り組むべき方向性や課題について、誠に意義あるご提言をいただきました。

市民の誰もが望んでいる心身の健康の維持・増進を実現するために、運動・スポーツの持つ役割の大きさを痛感します。また、そのための運動施設の整備充実が急務となっていることの現実を、市体育協会はもとよりスポーツに携わる多くの関係者が、それぞれの立場から方策を出し合い、課題解決に向けて努力を継続することが肝要と考えます。市体育協会として一層組織的な活動を推める必要性を強く感じました。

体操連盟



平成十八年度、協会に登録されているチームは、男子一四〇(A、B、C、Dの四クラス三十五チーム)、女子七、シニア十八の合計一五五チーム、三五〇〇余名の自他ともに認める体協一の協会です。

主な行事として

- 四、五月 春季大会(女子、シニア、男子)
- 五月 スコアラー講習会
- 九月 市民体育祭(女子、シニア、男子)
- 十月 チャンピオン大会
- 十一月 生涯スポーツフェスティバル、ティールボール
- 二月 技術講習会
- 三月 審判員講習会など

体操は身体の筋力を効果的に活用し、バネ、柔軟性、バランスを基本として、スピード、スロー、静止技を連続的に美しく見せるスポーツです。この概念は、パアレーや能などの芸術・芸能に共通点を見ることが出来ます。連盟の活動は昭和41年頃から始まり、47年頃には現在のスタイルが出来上がりました。基本コンセプトは設立

主旨どおり、こども達の基礎体力づくりを目的に、体操少年団を指導しています。団員は現在男女合わせて40名。練習は毎週土曜日2時から4時までの2時間。短い時間を有効的に使って「きのうまでできなかった技が今日できた」といったこども達が、自信をもって発展するようなイメージが広がるようなトレーニングを指導者は心がけています。

ソフトボール協会

平成十八年度、協会に登録されているチームは、男子一四〇(A、B、C、Dの四クラス三十五チーム)、女子七、シニア十八の合計一五五チーム、三五〇〇余名の自他ともに認める体協一の協会です。

主な行事として

- 四、五月 春季大会(女子、シニア、男子)
- 五月 スコアラー講習会
- 九月 市民体育祭(女子、シニア、男子)
- 十月 チャンピオン大会
- 十一月 生涯スポーツフェスティバル、ティールボール
- 二月 技術講習会
- 三月 審判員講習会など

今後、登録選手の高齢化に伴い、予想されるチーム数減少の歯止めのため、チーム構成などの対策を考案する一方、生涯スポーツの振興に真剣に取り組んでいきます。



クレール射撃協会

当協会は、昭和28年に発足し、31年に市体育協会へ加盟し現在に至っています。古くは、狩猟愛好家を中心としておりましたが、現在ではスポーツとしてクレール射撃を楽しむ人が多くなってきました。クレール射撃は年令、体力を問わず個人で競技が出来るという事で近年、女性や団塊世代の姿も見られるようになりました。当協会では、



市民体育祭のみならず県民大会、国体へと活躍の場を広げています。本年の兵庫国体で、10年連続出場の手もおり昨年同様上位入賞を目指しています。

現在、環境問題で県内公式クレール射撃場が閉鎖され県外までの遠征を強いられる状況です。早期に埼玉県長瀬総合射撃場が再開されることを願っております。

なぎなた連盟

川越には四つのクラブに小学校低学年〜八十才まで幅広い年齢層のクラブ員で構成され、それぞれの体力能力に合った練習をしております。

なぎなたは型(一本〜八本)と防具を付けての試合競技があり、剣道と違う所はスネ当てを付けてのスネ打ちがある所です。

なぎなたは女性スポーツと考えられがちですが男子の部もあり世界大会に優勝している人もおります。

川越にも男性クラブ員がおりますが、仲間がもつとふえると良いと思っております。

なぎなたの理念
なぎなたは、なぎなたの修練により、身心ともに調和のとれた人材を育成する。



ラグビーフットボール協会



ラグビーの普及のために「市内でラグビーのできるグラウンドを増やす」「川越の子供達に、地元でトップリーグまたは大学の試合を見せる」という二つの目標を掲げています。具体的には毎年次のような活動を行っています。

- 6月 狭山市のトップリーグチーム「セコムラグッツ」による技術講習会
- 11月 市民体育祭ラグビーフットボールの部(小・中・高・社会人)
- 3月 タッチフットボール大会

昨年度のタッチフットボール大会には、東京国際大ラグビー部や女子ラグビーチーム、中学生チームも参加して、異なる年齢やカテゴリーのチームによる試合を楽しみました。また当日はトップリーグ「セコムラグッツ」の選手も来場、本物のすごさを魅せてくれました。

ゲートボール連合会

ゲートボールは、もともとフランスで始められイギリスに伝わった打球技(クロッケー)をヒントに一九四七年北海道住人鈴木和信氏が、青少年のためにと考案した日本生まれのスポーツで、一五×二〇M、二〇×二五Mのコートに設置された三ツのゲートと一ツのゴールポールを各競技者がボールを通過させ、さらに上りを競う五人対五人の対抗競技です。青少年ではなく高齢者が取り入れ、またたく間に全国に普及しました。日本のみならず世界各国にも理解され、世界大会も開かれています。平成二十年までに国民体育大会に採用されるようにと小野清子会長を先頭に三人の国会議員、百人の友好議員連盟も力を合わせ日本体育協会に働きかけを行っていただいております。



小学校体育連盟



川越市小学校体育連盟には、市内33校の小学校が加盟しています。毎年、6月にはバスケットボール大会、11月にはサッカー大会を行っています。各地区ごとに2、3校が集い、球技の楽しさや喜びを味わわせるとともに社会的な態度を育成し、他校との親善を深めています。また、10月に開かれる市民体育祭小学校陸上の部では、4種目の陸上競技で児童が競い合っています。今年も751名が参加し、活躍しました。その他にも、授業研究会、実技講習会を行い、各校の教師の資質向上に努めています。今後、体力の向上と健康の増進を図り、たくましく生きる子ども達の育成のため活動を続けていきます。

本校体育連盟は昭和三十年に発足し、学習指導や各競技への取り組みを通して、その時々課題を踏まえながら、学校体育・スポーツの振興に大きな役割を果たしてきました。そして、本体育連盟も時代や社会の変化とともに組織の見直しや、事業内容の検討を繰り返しながら今日まで充実・発展してまいりました。本体育連盟の活動は競技部と研究部の二つの組織で構成されています。競技部では、平成十六年度から年三大会から二大会(学校総合体育大会・新人体育大会兼県民総合体育大会)となり本年度三年目を迎えました。各競技部の専門委員長を中心として円滑な運営が行なわれ、各種目とも力一杯に競技や演技に取り組み生徒達の姿が数多く見られます。研究部では、各授業研究会の実施、入間授業研究会への参加、入間・県研究協議会への参加を通して各学校の授業実践に生かすよう取り組んでいます。今後これら組織的・継続的な活動を通して次代を担う健全な体と豊かな心を持った生徒を育成するため、さらに本市の学校体育の充実及び生涯スポーツ発展のために更に研鑽を積み、努力を続ける所存であります。

団体
飛躍
め

中学校体育連盟

川越市レク・リーダーズクラブは、日本レクリエーション協会認定のレクリエーションインストラクター等の有資格者がレク活動の普及・指導を行う組織です。

川越市レク・リーダーズクラブは、ニュースポーツの普及・指導に力を入れて参りました。今後も様々なニュースポーツの普及・指導に取り組みで参ります。

最近の実績としては、「健康吹き矢」「ペタンク」の普及に取り組み、両種目共にクラブを立ち上げ、基礎づくり・体制がためを行い、公民館登録クラブとして活動を展開するまでに成長いたしました。高齢化社会を視野に今後も様々なニュースポーツの普及に取り組みで参ります。

川越インディアカ連盟は、1983年(昭和58年)に埼玉県インディアカ協会の創立に伴い設立されました。インディアカとは、4人で構成されたチームが、羽根のついたボール(インディアカ)をネットを隔てて手で打ち合うラリーゲームで、子供から高齢者まで体力に合わせてプレーすることが出来るレクリエーションスポーツです。



レクリエーション協会

レクリエーションリーダーズクラブ

インディアカ連盟



現在、連盟加盟チームは5チームで、各地域で活動しています。連盟主催のイベントとしては、市民体育祭の他、毎年11月3日に開催される「生涯スポーツフェスティバル」のふれあいコーナーで、多くの人にインディアカを体験してもらおうと共に、インディアカのPRに努めています。

第五十九回市民体育祭

■総合開会式

七月一日(土)川越運動公園総合体育館を会場に、第59回市民体育祭総合開会式が開催されました。体育協会加盟三十団体、三八八名の参加のもと、力強い入場行進が行われました。舟橋市長の挨拶に続いて、参加者を代表して剣道連盟の桑原正男さんによる選手宣誓が行われました。

川越市民体育祭 総合開会式



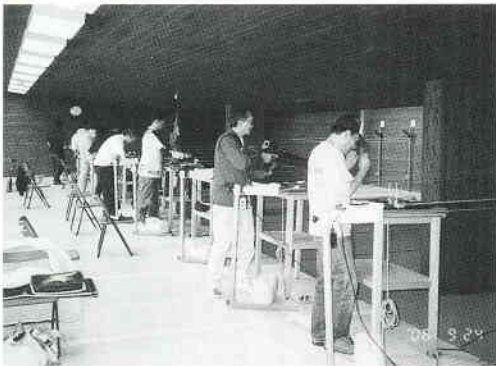
■グラウンドゴルフ

日程 九月二日(土)
会場 安比奈親水公園
参加者数 八〇〇名



■ライフル射撃

日程 九月二十四日(日)
会場 県営長湊総合射撃場(長湊町)
参加者数 一八名



■剣道

日程 十月一日(日)
会場 川越武道館
参加者数 一八一名



■弓道

日程 九月十八日(祝)
会場 川越武道館
参加者数 一八六名



■ボウリング

日程 十月二十二日(日)
会場 新狭山グランドボウル(新狭山)
参加者数 六八名



■少林寺拳法

日程 十月一日(日)
会場 東洋大学体育館
参加者数 二二二名



■柔道

日程 九月三日(日)
会場 川越武道館
参加者数 四六四名

■空手道

日程 十月一日(日)
会場 尚美学園大学
参加者数 二〇二名

■テニス

日程 九月九日(土)～
十一月十二日(日)
会場 川越運動公園テニスコート
参加者数 一、三七八名

■陸上競技

日程 八月六日(日)
会場 川越運動公園陸上競技場
参加者数 六〇五名

■水泳

日程 九月三日(日)
会場 県立川越高校
参加者数 一、一八二名

■ソフトテニス

・一般男子・女子 成人男子・女子
・壮年男子
日程 十月九日(祝)
会場 川越運動公園テニスコート
参加者数 四八名

・ママさん

日程 十月四日(水)
会場 川越運動公園テニスコート
参加者数 五八名

・ジュニア

日程 十一月五日(日)
会場 川越運動公園テニスコート
参加者数 四六名

■野球

日程 十月十五日(日)～
十一月十二日(日)
会場 初雁球場
参加者数 二二四名

■バレーボール

・総合六人制男子・女子
・総合九人制男子・女子
日程 十一月五日(日)
会場 総合運動公園総合体育館
参加者数 二五五名

・九人制四号球女子

日程 十月九日(祝)
会場 総合運動公園総合体育館
参加者数 四九五名

・ジュニア

日程 九月十六日(土)
会場 総合運動公園総合体育館
参加者数 三〇〇名

■バスケットボール

・一般男子・一般女子
日程 十一月十一日(土)・
十二日(日)
会場 総合運動公園総合体育館
参加者数 六〇〇名

・中学二年

日程 十一月十八日(土)・
十九日(日)
会場 市内中学校
参加者数 三〇五名

・ミニバスケット

日程 十一月十八日(土)・
十九日(日)
会場 南古谷小学校ほか
参加者数 四九七名

■サッカー

・社会人
日程 十月二十二日(土)～
十二月三日(日)
会場 安比奈サッカー場ほか
参加者数 五三六名

・女子

日程 十月十五日(日)
会場 川越運動公園陸上競技場
参加者数 八〇名

・少年

日程 十月八日(土)～
十一月十八日(土)
会場 霞ヶ関東サッカー場ほか
参加者数 一、一三〇名

■卓球

日程 来年一月十四日(日)
会場 総合運動公園総合体育館

■スキー

日程 来年二月十八日(日)
会場 湯沢パークスキー場
(新潟県湯沢町)

■スケート

日程 十一月二十六日(日)
会場 東武川越スケートセンター

■バドミントン

日程 十一月二十六日(日)
会場 川越運動公園総合体育館
参加者数 二一八名

■レクリエーション

・民謡
日程 十月十六日(月)
会場 川越武道館
参加者数 一五三名

・フォークダンス

日程 九月二十四日(日)
会場 川越第一小学校
参加者数 六九名

・健康リズム体操

日程 十月十三日(金)
会場 北公民館
参加者数 三五名

・マレットゴルフ

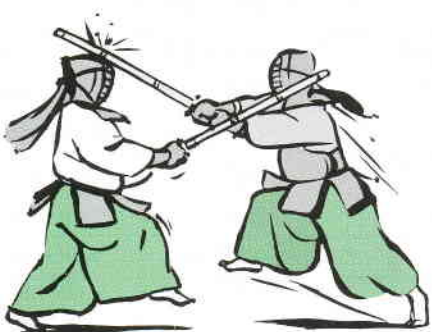
日程 十月九日(祝)
会場 霞ヶ関東コース・
今福コース
参加者数 一七二名

・3B体操

日程 十一月一日(水)
会場 川越運動公園総合体育館
参加者数 三〇〇名

・ターゲットバードゴルフ

日程 十月十五日(日)
会場 南都公共広場ほか
参加者数 一一五名



女性スポーツの集い

スポーツジャーナリストとして活躍の二宮清純氏をお迎えし、「スポーツは文化」と題してご講演をいただきましたが、特に印象に残った話について、紹介してみたいと思います。

スケートの荒川静香選手の話で、ポイントがつかないとわかっていくイナバウアーを自分のアイデンティティとして、自信を持って氷上で舞う。それが観客を魅了し、さらに審判員も動かすことになったと説明されました。このことをうけて、学校での偏差値教育やテレビ局の視聴率至上主義など、あまりにも今の日本は数値信仰が支配しすぎており、その中で荒川選手のイナバウアーはたいへん価値があると評価しておりました。

その他にも多くのスポーツ界の話題を熱心に話され、観客も充分満足した講演となりました。



活躍する選手たち

■陸上競技協会 谷中博史さん



・川越市陸協理事
・若葉グリーンメイト代表
・「オールアバウトジョギングマラソン」ガイドなどで活躍

第一に、マラソンの魅力は微に加えてレースマネージメントの面白さがあげられます。

レースのコースや気候を想定したトレーニング、当日の天候と体調や仕上がり具合で微調整、スタート後も臨機応変に作戦を変えるが、「自分を見失わず」という戦術性に富んだスポーツであり、その努力や工夫が反映される奥の深さがあると思います。

—— これからの目標は

日本人の元気年齢を一歳伸ばすこと。それはジョギングやウォーキングの習慣と、わずかな栄養学や予防医学の知識の普及で可能です。その習慣や体験を子どもたちに広めたい、手伝いをしたいというのが、協会加入の一番の目標です。その一環として、ハーフ程度のマラソン大会開催を願っています。

(10月16日インタビュー 萩原 要)

名細中学校 女子バレーボール部

〈主な成績〉

- ・平成17年度埼玉県新人体育大会 兼 県民総合体育大会 第3位
- ・平成18年度第4回埼玉県バレーボール協会会長杯 第3位
- ・平成18年度埼玉県学校総合体育大会 兼 関東予選会 第3位
- ・平成18年度第41回関東中学校バレーボール大会 ベスト16

新人大会で県3位となり、その後は関東大会出場をチームの目標とし、日々練習を積み重ねてきました。その結果、念願である関東大会出場を果たすことができました。出場に際しては、市長、教育長をはじめ、川越市バレーボール関係者より、たくさんの方の激励声援をいただき本当にありがとうございます。



念願の関東大会出場！

連盟・協会 問い合わせ先一覧

(H19. 1. 1 現在)

種 目	連絡責任者	電 話
野 球	和田 昌男	
卓 球	牧野 保代	
ソフトテニス	根岸 督好	
バレーボール	山崎 雅晴	
バスケットボール	加藤 智哉	
サッカー	前野 利夫	
柔 道	及川 誠	
剣 道	新井 進	
弓 道	岡田 晴義	
空手道	菅野 康之	
陸上競技	岩瀬 善彦	
水 泳	佐藤 明	
スキー	宮本 一彦	
クレー射撃	小原 征男	
ライフル射撃	村田 泰次	

種 目	連絡責任者	電 話
スケート	岩澤 嗣夫	
体 操	森 賢子	
小学校体育	生野 元	
中学校体育	黒須 淳一	
高等学校体育	澤田 泰造	
レクリエーション	小山 久子	
バドミントン	鈴木 孝治	
少林寺拳法	坂上 宣久	
ソフトボール	加藤 正義	
テニス	松本 政之	
ボウリング	渡辺 貞夫	
なぎなた	野原 広子	
ラグビーフットボール	佐藤 紳也	
ゲートボール	矢島 貞夫	
グラウンドゴルフ	石井 紀男	

編 集 後 記

謹賀新年 今号から一月発行となりました。是非ご一読ください。今後、より良い紙面づくりに努力いたします。皆様の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。(広報委員一同)